

一日 時 平成二十九年一月三十一日（火）第六限

二 学 級 第二学年三組（男子 十六名 女子 十名）・文系スタディクラス

三 場 所 視聴覚教室

四 单 元

「鴻門之会 心の声の攻防」
登場人物の心情を考えることで、作品を深く鑑賞しよう。

五 单元の目標

- (1) 古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえること。（「指導事項」のイ）
- (2) 古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。（「指導事項」のウ）

六 取り上げる言語活動と教材

- (1) 古典に表れた人間の生き方や考え方などについて、文章中の表現を根拠にして話し合うこと。（「言語活動例」のウ）
- (2) 教材 「鴻門之会 劇舞」『史記』（『古典B』数研出版）

七 单元の具体的な評価規準

- (1) 古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえようとしている。（知識・理解）
- (2) 古典を読んで、文章中の人物の、人間、社会、自然などに対する思想や感情を読み取っている。（読む能力）

八 指導観

(1) 単元観

写実的な描写の文章を、様々な資料と関連づけさせながら主体的・協働的に読むことができることで、登場人物の心情を捉える方法を学ぶことができる。

(2) 学習者観

学習態度は良好で、グループ学習の場面でも協力して行うことができる生徒が多い。学習に対してやや受け身的な傾向があり、知識の活用を苦手とする。そこで主体的に考えたり、知識同士を有機的に結びつけたりする姿勢を養いたい。

(3) 教材観

登場人物の描写に躍動感があり読みやすく、文章自体を理解することはさほど難しくない。しかし、文章の表面的な読み取りだけに終始するのではなく、行動の背景には何らかの心情があることに気づくことで、作品を自ら深く読解して味わうおもしろさを体験できる教材である。

九 単元の指導計画

第1次 時間	第2次 時間	第3次 時間	言語活動に関する指導上の留意点					
			評価規準 (ノート)	評価方法 (記述の点検)	評価規準 (ワード)	評価方法 (記述の確認)	評価規準 (ワード)	評価方法 (記述の確認)
・ 文学史について理解する。	・ 登場人物の心情や行動の意図を考える。行	・ 各班劇を発表する。劇の後、その班に対して観劇した班が質問（記者会見）し、評価する。	・ 心情がうかがえる台詞や動作を考えて、台本化する。	・ 発表準備をする。	・ 活動の意図を伝える。台詞には、第2次で考えた心情を反映させる。	・ 教科書の解説などを参考にして、『史記』の特徴と文学史的位置づけや、秦末から鴻門之会に至るまでの歴史的背景をつかませる。	・ 登場人物の心理や行動の意図などを各自で考えて付箋に書かせる。	・ 活動の意図を伝える。
・ 相互評価を、自班や個人評価に還元する。	・ 本文の内容をとらえる。	・ 各班の「会見記録・評価プリント」をまとめたものを配布し、会見内容や受け答えなどの振り返りをして、心情を確認させる。	・ 他班評価も踏まえ、ループリックで自班を評価させる。	・ 他班評価・自班評価を見て、個人で活動の意図を再確認することについて説明する。	・ 他班評価も踏まえ、ループリックで振り返りシートの質問項目について説明する。	・ 本文の台詞そのままは不可とする。補助資料を読み、剣舞のその後の経緯（どの場面までにするかは自由）も劇で表現させる。	・ 登場人物像を捉えさせる。	・ 記述の確認（ワード）
◆ ◇ (2) 返りシートの確認 (振り)	◆ ◇ (1) 記述の確認 (ワード) と会見の内容 (発表)	◆ ◇ (1) 記述の確認 (ワード) と会見の内容 (発表)	◆ ◇ (2) 記述の確認 (ワード)	◆ ◇ (2) 記述の確認 (ワード)	◆ ◇ (1) 記述の確認 (ワード)	◆ ◇ (2) 記述の確認 (ワード)	◆ ◇ (1) 記述の確認 (ワード)	◆ ◇ (1) 記述の確認 (ワード)

本時の目標
古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとしている。「指導事項」のウ)
本時の評価規準
古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとしている。「指導事項」のウ)

十二 本時（全八時間中の七時間目）の指導

学習段階	学習内容	学習活動	言語活動における指導上の留意点
導入 3分	・本時の学習内容を知る。	・評価の規準を確認する。	・発表が円滑に進行するよう観察・補助する。
展開 42分	・班ごとに劇形式の発表を行う。 ・発表班への記者会見準備を行う。 ・発表班への記者会見を行う。 ・他班は発表を見て、必要に応じて自分の原稿（ワークシート③）にメモや加筆訂正をする。	・順番が来た班は前に出て発表する。 ・他班は発表を見て、必要に応じて自分の原稿（ワークシート③）にメモや加筆訂正をする。	・発表が円滑に進行するよう観察・補助する。
終結 5分	・次時の学習内容を知る。 （発表、会見準備、記者会見評価を2つの班が繰り返す。） ・次時の活動内容について確認する。 （登場人物役は、その人物になりきつて回答する。回答を記録用プリントに、回答を記録する。） ・ワークシートや会見記録・評価プリントを各班のファイルに挟み込ませ、回収する。	・登場人物へインタビューしていく。質問を受けた登場人物役は、その人物になりきつて回答する。回答を記録する。 ・登場人物の行動を把握して、劇に表現している。 ・班で検討したうえで評価を決めさせること。 ◆ ◇本時の評価規準 ◆記述の確認（ワークシート③、会見記録・評価プリント） ◆行動の確認（発表と会見の内容）	・発表を評価する際の、「5」と「3」のレベルの違いを理解させる。

作品理解（総合）	人物理解（記者会見の場面）	心情把握（劇の場面）	観点レベル	十三 評価の観点とループリント
資料などを活用して「鴻門之会」前後の場面を理解し、自分たちなりの解釈を付け加えて表現している。	登場人物の人物像を、資料などを活用して把握し、資料質問に答えている。	登場人物の心情を、資料などを活用して把握し、資料質問に答えている。	5	・次時の学習内容を知る。 （発表、会見準備、記者会見評価を2つの班が繰り返す。） ・次時の活動内容について確認する。
資料などを活用することで、「鴻門之会」前後の場面を理解し、現している。	登場人物の人物像を、教科書本文のみを根拠に把握し、質問に答えている。	登場人物の心情を、教科書本文のみを根拠に把握し、劇に表現している。	3	・登場人物役は、その人物になりきつて回答する。回答を記録する。 ・登場人物の行動を把握して、劇に表現している。
「鴻門之会」における「剣舞」の場面のみを理解して表現している。	登場人物に関する質問に答えている。	登場人物の行動を把握して、劇に表現している。	1	・登場人物に関する質問に答えている。

鴻門之会「剣舞」ワークシート① 1

()組 ()番 ()

鴻門之会「剣舞」

行動 ← 心情 ← 出来事

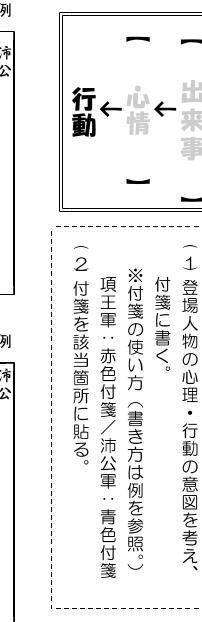
☆行動の裏に込められた心情を考えよう☆

(1)登場人物の心理・行動の意図を考え
付箋に書く。

※付箋の使い方(書き方は例を参照)

項王軍：赤色付箋／沛公軍：青色付箋

(2)付箋を該当箇所に貼る。



沛公旦日從百余騎、來見項王。

例
沛公
・項王の怒りを解きたい。

例
沛公
・少人数で行く
…敵意がないと示すため。

沛公旦日從百余騎、來見項王。

至2
鴻門、謝曰、「臣与將軍効力而

攻秦。將軍戰河北、臣戰河南。

沛公旦日從百余騎、來見項王。

然不自意、能先入闕破秦、

得復見將軍於此。今者有小人之

西轡侍。

亞父者范增也。沛公北轡坐、張良

項王・項伯東轡坐、亞父南轡坐。

項王即日因留沛公與飲。

言之。不然、籍何以至此。」

項王曰、「此沛公左司馬曹無傷言、令將軍與臣有郤。」

范¹² 增數目項王、拳所佩玉玦、

以示之者三。項王默然不應。

范¹⁴ 增起、出召項莊、謂曰、

「君王為人不忍。若¹⁵入、前為壽。」

壽¹⁶ 畢、請以劍舞、因擊沛公於坐

不¹⁷

者、若屬皆且為所虜。」

莊¹⁸ 則入為壽。

壽¹⁹ 畢曰、「君王與沛公飲軍²⁰中無以

為樂。請²¹以劍舞。」項²²王曰、「諾。」

項²³ 莊拔劍起舞。

項²⁴ 伯亦拔劍起舞、常以身翼蔽

沛公。莊²⁵不得擊。

攻至²
秦鴻門、謝曰、「臣与將軍効力而

今⁵
者有小人之言、令將軍與臣有郤。」

沛¹公旦曰從百余騎、來見項王。

例
項王
・沛公に激怒している。

將然⁴
軍不於自意、能先入關破秦、得復見

將³
軍戰河北、臣戰河南。

【】班「剣舞」ワークシート② 1 <項王軍側まとめ>

☆行動の裏に込められた心情をグループで検討しよう☆
各自の「ワークシート①」の付箋をすべてこの「ワークシート②」にそれぞれ貼り移し、意見を集約しよう。
（項王軍）／（沛公軍）に重ねて貼ろう。意見を集約しよう。
※同じ意見の付箋は複数ある場合は複数枚貼り移す。
（2）も踏まえ、付箋の内容を検討・追加しよう。
補助資料を読み、それぞれの人物像を把握しよう。
確定した付箋の周りを、赤／青色マジックで○で囲もつ。
自分のワークシート①に、赤／青色マジックで○で囲もつ。
（4）を書き写そう。

【班「剣舞」ワークシート② 2 <項王軍側まとめ>

項⁶ 王之。曰、「此沛公左司馬曹無傷。

不⁷然、籍何以至此。」

項⁸ 王即日因留沛公与飲。

西亞¹⁰ 爭父侍者。范增也。沛¹¹公北北坐、張良

以范¹²示增之數者目三項。王、拳所佩玉玦、

項⁹ 王・項伯東東坐、亞父南南坐。

【】班 「剣舞」ワークシート② 3 <項王軍側まとめ>

項¹³
王 默然不應。

范¹⁴
增起、出召項莊、謂曰、

「君王為人不忍。¹⁵若入、前為壽。」

莊¹⁸
則入為壽。

不¹⁷
者、若屬皆且為所虜。

殺寿¹⁶
之畢。¹⁸請以劍舞、因擊沛公於坐。

【】班 「剣舞」ワークシート② 4 <項王軍側まとめ>

項23	請21	為寿19
莊	以	樂畢
拔	劍	。曰
劍	舞	、「君
起	」。	王
舞	項22	与沛公飲。
。	王	軍 ²⁰ 中無以
	曰	
	、「諾	
	」。	

莊25	沛 項24
不	公伯
得	。亦
擊	拔劍
。	起舞、常以身翼蔽

攻至²
秦鴻門、謝曰、「臣与將軍効力而

今⁵
者有小人之言、令將軍與臣有郤。」

沛公旦日從百余騎、來見項王。

例
沛公
・項王の怒りを解きたい。

例
沛公
・少人数で行く
…敵意がないと示すため。

將³
軍戰河北、臣戰河南。

將然⁴
軍不於自此意、能先入關破秦、得復見

【】班 「剣舞」ワーカシート② 1 <沛公軍側まとめ>
☆行動の裏に込められた心情をグループで検討しよう☆
各自の「ワーカシート①」の付箋をすべてこの「ワーカシート②」にそれぞれ貼り移し、意見を集約しよう。
（項王軍）／（沛公軍）に重ねて貼ろう。意見を集約しよう。
※同じ意見の付箋は複数ある場合は複数枚提出してよい。
補助資料を読み、それぞれの人物像を把握しよう。
（2）も踏まえ、付箋の内容を検討・追加しよう。
確定した付箋の周りを、赤／青色マジックで○で囲もつ。
自分のワーカシート①に（4）を書き写そう。

【班「剣舞」ワークシート② 2 <沛公軍側まとめ>

項⁶ 王之。曰、「此沛公左司馬曹無傷。

不⁷然、籍何以至此。」

項⁸ 王即日因留沛公与飲。

項⁹ 王・項伯東嚮坐、亞父南嚮坐。

西亞¹⁰嚮父侍者。范增也。沛¹¹公北嚮坐、張良。

以范¹²示增之數者目三項。王、拳所佩玉玦、

【】班 「剣舞」ワークシート② 3 <沛公軍側まとめ>

項¹³
王 默然不應。

范¹⁴
增起、出召項莊、謂曰、

「君王為人不忍。¹⁵若入、前為壽。」

殺寿¹⁶
之畢。¹⁷請以劍舞、因擊沛公於坐

不¹⁷
者、若屬皆且為所虜。

莊¹⁸
則入為壽。

【】班

「剣舞」ワークシート② 4

〈沛公軍側まとめ〉

項23	請21	為寿19
莊	以	樂畢
拔	劍	。曰
劍	舞	、「君
起	」。	王
舞	項22	与沛公飲。
。	王	軍 ²⁰ 中無以
	曰	
	、「諾	
	」。	

莊25	沛 項24
不	公 伯
得	。亦
擊	拔劍
。	起舞
	、常以身翼蔽

【 】班 「剣舞」ワークシート③-1 ()組()番()

)

☆「剣舞」を脚本化しよう☆

(1) 「ワークシート①」をもとに、心情がうかがえる台詞・動作を考えて記入しよう。

※台詞化する時は、必ず心情を反映させること。本文そのままの台詞は不可!

(2) 配役を考え、役決めをしよう。(「ワークシート④」)

発表に向けて、動き・台詞の練習をしよう。また、必要に応じて小道具も準備しよう。

〈本文〉

〈人物〉

〈発言・行動〉

1 沛公旦日從
百余騎、來見
項王。

例
項王

例
・怒りの表情で
「沛公め、よくも函谷関を閉ざして私の軍の進行を阻止したな。許さぬ！」
やつの軍を殲滅してやる！」

7不然、籍何
以至此。」

沛公軍

・「おおー！」雄叫びを上げる。
・「このままでは我が軍はやられててしまう。なんとか項王の怒りを解きたい…。
・よし、鴻門へは少數の兵で行ってしまう。敵意がないことを示そう。」
・鴻門へ移動する。

【 】班 「剣舞」ワーカシート③-2

() 組() 番()

)

☆「剣舞」を脚本化しよう☆

(1) 「ワーカシート①」をもとに、心情がうかがえる台詞・動作を考えて記入しよう。

※台詞化する時は、必ず心情を反映させること。本文そのままの台詞は不可!

(2) 配役を考え、役決めをしよう。(ワーカシート④)

(3) 発表に向けて、動き・台詞の練習をしよう。また、必要に応じて小道具も準備しよう。

応 13
8 項王即日因
留沛公与飲。

~

〈本文〉

〈人物〉

〈発言・行動〉

【 】班 「剣舞」ワークシート③-3 () 組 () 番 ()

)

☆「剣舞」を脚本化しよう☆

- (1) 「ワークシート①」をもとに、心情がうかがえる台詞・動作を考えて記入しよう。
- (2) ※台詞化する時は、必ず心情を反映させること。本文そのままの台詞は不可!
- (3) 配役を考え、役決めをしよう。(「ワークシート④」)
- (4) 発表に向けて、動き・台詞の練習をしよう。また、必要に応じて小道具も準備しよう。

召
項
莊
范
14
増
起
出
「君
王
為
人
不
忍。
皆
且
為
所
虜。
」

~

〈本文〉

〈人物〉

〈発言・行動〉

【 】班 「剣舞」ワーカシート③-4 ()組()番()

～

)

☆「剣舞」を脚本化しよう☆
(1)「ワーカシート①」をもとに、心情がうかがえる台詞・動作を考えて記入しよう。
※台詞化する時は、必ず心情を反映させること。本文そのままの台詞は不可。
(2)配役を考え、役決めをしよう。(「ワーカシート④」)
(3)発表に向けて、動き・台詞の練習をしよう。また、必要に応じて小道具も準備しよう。

18
莊則入為寿。
～

25
莊不得擊。

〈本文〉

〈人物〉

〈発言・行動〉

【 】班 「剣舞」ワークシート③-5 ()組()番()

()

☆「「剣舞」の「その後」」を脚本化しよう☆
(1)補助資料を読み、剣舞の場面のその後の経緯(どの場面までにするかは自由)も劇にしてよう。
(2)配役を考え、役決めをしよう。(ワークシート④)
(3)発表に向けて動き・台詞の練習をしよう。また、必要に応じて小道具も準備しよう。

〈場面〉 〈人物〉 〈発言・行動〉

項莊は沛公を擊てなかった

【班】班 鴻門之会「剣舞」ワークシート④

☆「剣舞」の配役を決めよう☆

(1) 「ワークシート③」をもとに、必要な役を考え、役決めをしよう。

(2) この班の、劇のタイトルを決めよう。また、必要に応じて小道具も準備しよう。

(3) 発表に向けて、各自で動きや台詞の練習をしよう。また、必要に応じて小道具も準備しよう。

(4) 発表に向けて、班で通し練習もしよう。本番はなるべく脚本プリントを見ないように！

☆配役

☆劇のタイトル							班員
							配役
							班員

☆発表の流れを確認しよう☆

※1月31日（火）6限古典は視聴覚教室で行います。

※遅刻厳禁、身だしなみ注意、忘れ物をしない（取りに戻れない）。

持ち物・脚本・心情プリント（絶対忘れない！）、劇の小道具、いつもの古典授業の用意も

（1）3班の発表（約10分程度）

- ・3班.. 役のゼッケンを着用する。劇のタイトル用紙を黒板に貼付ける。
脚本ワークシートを持って発表して良いが、なるべく見ないように顔を上げる。
大きな声・身振りではつきりと堂々と発表しよう。
- ・1班2班（聴衆）.. 自分の脚本（ワークシート③）に赤ペンでメモ（加筆修正など）を取りながら観劇する。

（2）3班への記者会見準備（5分）

- ・3班.. 心情ワークシートや脚本ワークシートなどを準備しておき、前に一列に並んで質問に備える。
- ・1班2班.. 質問事項を複数考え方記者会見プリントにまとめ、質問する優先順位をつけておく。
質問項目のメモにも、質問内容を写しておく。
質問例「＊＊さん、私たちのは〇〇と考えましたが、あなたは△△でしたね。」
※聞きたいことだけでなく、相手の気持ちを引き出せるような質問や聞き方の工夫もしよう。

（3）3班への記者会見（4分）※司会【2班の二人.. と 】が進行する。

- ・1班2班のインタビューする人（各班2人ずつ）
.. 質問内容を写した質問項目のメモを持って、記者席へ移動する。
記者になりきって、拳手制で登場人物へインタビュー（質疑応答）する。
- ・3班.. 質問されたら..
自分がその登場人物になりきって回答をする。
※何を・どのように答える？ II 人物理解！
質問された登場人物がどうしても答えられなかつたら…
他の答えられる人が、「その」質問には私が代わりに答えます。』と前書きして答える。

- ・記者.. 拳手 → 司会.. 指名して「所属名と名前を始めに言ってから質問してください。」
↓ 記者.. 立ち上がって「●班の▲▲です。……」→ 登場人物.. 質問に答える

↓ 記者.. 追加質問しても良い → 記者.. 「ありがとうございます」と書いてその場に座る

- ・1班2班の書記.. 記録用プリントに、自分の班の質問事項と、その回答を記録する。

（4）3班を評価（1～2分）

- ・1班2班は班で話し合い、3班の劇や記者会見の内容を評価する。
※発表班への評価は必ず話し合って決める！

- ・3班.. 役のゼッケンや劇のタイトルを外す。退場し、自席へ戻る。

（5）（2～5）を1班も繰り返す。一つの班の劇～評価までは、20分とする。

- ※発表の入れ替わりや準備等、移動を速やかにしましょう！

- （6）授業終了時、各自の「心情ワークシート」と「脚本ワークシート」、
班の「会見記録・評価シート」を班のファイルに入れ、前に持つてくる。
↓ 各自の「心情ワークシート」と「脚本ワークシート」は、個人単位で評価します。

- （7）授業終了後、すべての机とイスを元通りに素早く戻して教室へ戻る。

【】班 鴻門之会「劍舞」会見記録・評価シート

へへ班の発表について

○発表班への質問事項を複数考え方、質問する優先順位をつけよう。
※書記が中心となつて記録をまとめましょう。

質問文例
・「＊＊さん、
▲私たち＊＊と書きましたが、あなたは△△でしたね。
▲の時は、●●ではないのでしょうか？」

相手の気持ちを
引き出す質問や
聞き方を工夫しよう

【】班 鴻門之会「劍舞」会見記録・評価シート

へへ班の発表について

○発表班への質問事項を複数考え方、質問する優先順位をつけよう。
※書記が中心となつて記録をまとめましょう。

・「＊＊さん、
▲私たちには〇〇と書きましたが、あなたは△△でしたね。」
▲の時は、●●ではないのでしょうか？」

相手の気持ちを
引き出す質問や
聞き方を工夫しよう

○会見席で質問をされる人（各班2人）は、質問をこの用紙にメモして会見席へ持参しましょう。

順優位先	へ　へ　班への質問事項	記者会見の手順
		記者　..　拳手
		司会　..　指名して「所属名と名前を始めに言ってから質問してください。」
		記者　..　立ち上がりて「●班の▲です。」
		登場人物　..　質問に答える
		記者　..　追加質問しても良い
		記者　..　「ありがとうございました」→座る

○会見席で質問をする人（各班2人）は、質問をこの用紙にメモして会見席へ持参しましょう。

順優位先	へ　へ　班への質問事項	記者会見の手順
		記者　..　拳手
		司会　..　指名して「所属名と名前を始めに言ってから質問してください。」
		記者　..　立ち上がりて「●班の▲です。」
		登場人物　..　質問に答える
		記者　..　追加質問しても良い
		記者　..　「ありがとうございました」→座る

相手の気持ちを
聞き出す質問や
聞き方を工夫しよう

記者会見の手順

記者　..　拳手

司会　..　指名して「所属名と名前を始めに言ってから質問してください。」

記者　..　立ち上がりて「●班の▲です。」

登場人物　..　質問に答える

記者　..　追加質問しても良い

記者　..　「ありがとうございます」とさりげなく「ました」と座る

相手の気持ちを
聞き出す質問や
聞き方を工夫しよう

記者　..　拳手

司会　..　指名して「所属名と名前を始めに言ってから質問してください。」

記者　..　立ち上がりて「●班の▲です。」

登場人物　..　質問に答える

記者　..　追加質問しても良い

記者　..　「ありがとうございました」とさりげなく「ました」と座る

「鳥門の糞」「シバヤシの糞」

2年()組

2

○自分の班の劇や会見の内容を振り返り、班員で評価しよう。
※班長が中心となって、必ず班で話し合って評価を決めるうこと!

C （総合作品理解）	～B の記入場面者物理解見	～A 劇の場面心情把握	観点 ／ レベル
け自分会料」など前後の場面を活用していりの解釈「鴻門付」	問な登場にど答を人物の活用のひしている。人物像を、資料質	表ど登場現を活用していしる。人物の心情把握を、資料に	5
し場で資て面「料などを「鴻門之会」を活用すること	し書登場、本場人物の人物像を、質文のみを根拠を、質問に答えている。教科	劇本登場に文表現の人物の心情を、現しを根拠を、抛するに。把握教科、書	3
表舞「現しの場面のみにおける「剣	え登場人物に關する質問に答	て登場、劇に人物の行動を表現している。把握し	1

A
B
C
ノメント

○劇や記者会見について、他班からの評価をもらい、自分の班の評価も行いました。それらを踏まえて、最後に自分で振り返ってみましょう。

☆該当あるといふ上、感想をまとめておしそう。

- (よくできた) • ある程度できた) • あまりできなかつた) • 全くできなかつた)
2 グループで検討したり、補助資料を効果的に使って知識を結びつけたりするにじみて、
登場人物の心情や人物像をより深く捉えることができましたか。

(よくできた) • ある程度できた) • あまりできなかつた)
3 脚本作りによって、心情理解を深めることができたか。

(よくできた) • ある程度できた) • あまりできなかつた)
4 観劇や記者会見によって、心情を多面的にうかがえることができましたか。

(よくできた) • ある程度できた) • あまりできなかつた)
5 じの授業での活動を通して、本文理解を深めることができましたか。

(よくできた) • ある程度できた) • あまりできなかつた)
6 じの授業により、自由に深く読み解して作品を味わおもしろさを体験できましたか。

(よくできた) • ある程度できた) • あまりできなかつた)
7 この授業により、今後、様々な作品を読むときに読み方が変わる(変えよう)と思
いましたか。

(もう思つ • まあもう思つ • あまり思わない • 全く思わない)